

【科目名】	家族看護特論		【科目英語名】	Family Nursing	
【開講時期】	2025年度後期	【必修区分】	☐ 必修 ☒ 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	富安真理				
【担当教員】	富安真理、篁宗一、高見紀子（非常勤）				
【D P との関連】	☐ DP1 ☐ DP2 ☒ DP3 ☒ DP4				
【授業概要】	家族看護は、療養者を含めた家族を一つの単位として捉え、家族の健康問題にアプローチする看護の一分野である。家族看護を理解し実践するために必要な知識としての家族論、現代家族の動向、次いで、家族看護と 家族療法に関する諸理論、さらに家族に対するアセスメントと介入方法を学ぶ。そして、家族のライフステージで生じやすい家族の健康問題へのアプローチを検討する。 【キーワード】家族看護、事例検討				
【授業目標】	1. 家族看護に関する研究の動向を理解できる。 2. 家族看護において必要となる諸理論や家族アセスメントモデルを説明できる。 3. 療養者とその家族への家族看護実践にあたっての看護専門職の役割を説明できる。 4. 家族看護の実事例から、家族看護実践の評価や課題について検討できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ Aディスカッション／ディバート ☐ Bグループワーク ☒ Cプレゼンテーション ☐ D実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 家族の形態と機能、家族の捉え方、現代家族の動向、家族と文化 （富安） 第2回 家族看護の歴史、目的、対象、評価 （富安） 第3回 家族発達理論、家族ストレス対処理論 （富安） 第4回 家族システム理論 ①システム論 （篁） 第5回 家族システム理論 ②家族看護と家族療法 （篁） 第6回 家族システム理論 ③全体としての家族 （篁） 第7回 家族アセスメントモデルと援助 ①フリードマン家族アセスメントモデル（高見） 第8回 家族アセスメントモデルと援助 ②カルガリー家族アセスメントモデル、エンパワメントモデル（高見） 第9回 家族アセスメントモデルと援助 ③渡辺式モデル（高見） 第10回 家族面接の技法 （篁） 第11回 家族看護の実践 急性期にある事例 （学生事例・富安） 第12回 家族看護の実践 慢性期にある事例 （学生事例・富安） 第13回 家族看護の実践 終末期にある事例 （学生事例・富安） 第14回 家族看護の実践 多問題化家族の事例 （学生事例・富安） 第15回 家族看護の実践 まとめ （富安）				
【事前・事後課題】	主体的にクラスに参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前・事後学習を行う。クラスの個別課題は、各クラスにて指示する。				
【準備学習時間】	各クラスにて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、各看護学特論				
【評価方法】	講義や討議の取組（20%）、事例検討のプレゼンテーション（50%）、課題レポート（30%）で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	家族看護学 理論と実践 第5版／鈴木和子・渡辺裕子／日本看護協会出版会／ISBN：978-4-8180-2208-9 家族看護モデル アセスメントと援助の手引き／森山美知子／医学書院／ISBN：978-4260341950				
【参考図書】	参考文献をクラスで紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	可 受け入れに際し、事前面談を実施する。		【科目等履修生】	可 受け入れに際し、事前面談を実施する。	

【科目名】	基礎科学特論		【科目英語名】	Fundamental Science	
【開講時期】	2025年度後期	【必修区分】	選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	井上健一郎				
【担当教員】	井上健一郎				
【D P との関連】	☐ DP1 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4				
【授業概要】	ヒトの正常発生を通して、器官の構造や機能を再考する。疾病の病態メカニズム・治療法に係る科学研究論文を紹介・抄読しながら、研究の意義づけ、新規性、発展内容等の骨格を会得する。 【キーワード】 遺伝、病態学				
【授業目標】	1. ヒトの正常発生を説明できる。 2. 先天異常がなぜ発生するか説明できる。 3. 遺伝のメカニズムを説明できる。 4. 病態発生メカニズムを説明できる。 5. 病態解明のためのアプローチを説明できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☒ Aディスカッション／ディベード ☐ Bグループワーク ☒ Cプレゼンテーション ☐ D実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 授業ガイダンス 第2回 ヒトの正常発生1 第3回 ヒトの正常発生2 第4回 先天異常の発生1 第5回 先天異常の発生2 第6回 遺伝のメカニズム1 第7回 遺伝のメカニズム2 第8回 病態発生メカニズム1 第9回 病態発生メカニズム2 第10回 病態解明のためのアプローチ1 第11回 病態解明のためのアプローチ2 第12回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論1 第13回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論2 第14回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論3 第15回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論4				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	各看護学特論				
【評価方法】	英語科学論文の講読レポート（50%）、講読内容のプレゼンテーション（50%）で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門II／母性看護学概論、小児臨床看護各論、呼吸器、循環器、血液・造血器、消化器、内分泌・代謝・脳・神経・腎・泌尿器、女性生殖器、運動器、アレルギー・膠原病、感染症／医学書院 その他、適宜提示する。				
【参考図書】	イヤernote 2024 内科・外科編／メディックメディア／岡庭豊(編集)／ISBN：978-4896328196 その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	事前面談あり		【科目等履修生】	事前面談あり	